

地域医療 BCP 分野の激甚災害に対する取り組みと課題
 Health Emergency and Regional Disaster Risk Management Research by Kyoto iMED
 to Prepare, Respond, and Recover against Strong Disaster

○下戸 学・大鶴 繁・趙 晃濟・堤 貴彦・

庵原美香・相田伸二・杉山 治・鈴木教雄・倉田真宏・牧 紀男

○Manabu SHIMOTO, Shigeru OHTSURU, Kosai CHO, Takahiko TSUTSUMI,

Mika IHARA, Shinji AIDA, Osamu SUGIYAMA, Norio SUZUKI, Masahiro KURATA, Norio MAKI

Hospital crisis causes not only physical and mental diseases directly for many people but also political, social, and economic problems indirectly. To mitigate these tragedies, the Japanese government has required disaster base hospitals to have their Business Continuity Plan (BCP) by March 2019. However hospital BCPs are useful, the capacity of health workers to understand disaster risk has some limitations. Therefore, the intersection of health and disaster risk reduction (DRR) is so important to integrate DRR into health care system. In April 2019, Kyoto iMED (informatics-Medicine-Engineering Research against Disaster) will develop the field of Health Emergency and Regional Disaster Risk Management Research (H-EDRM) to improve scientific health research and manage strong disasters. (112 words).

1. はじめに

医療機関におけるクライシスの発生は多くの身体的・精神的な健康の損失へ繋がり、政治経済、社会的にも影響する。これらを緩和するために災害拠点病院は事業継続計画 (BCP; Business Continuity Plan) 策定をその指定要件とされた。一方で実効的な BCP とするためには救急災害医学を含む人間健康科学の視点のみでは限界がある。例えば医療機関及び地域医療独自の自然・人為災害に対する様々なリスク分析やリソース種別毎の影響緩和策、代替手段確保などの自然科学から人文・社会学に渡る防災研究的視点は地域医療の減災に十分に応用されているとは言えない。

2. 目的

災害の種類や規模、フェーズを考慮し、急性期から慢性期、復興期までの災害医療、防災、経営を含む地域医療を継続させ、職種横断的に BCP 実行を推進し、地域医療の供給を管理する体制を目標とする。激甚災害の発生時に人的・経済的損失を最小限に止めるために防災研究を通じて、初動対応のみならず事前対応と迅速に復旧対応できる地域医療体制を提案する。

3. 方法

2016年2月より京都大学防災研究所と医学部附属病院は多職種からなる研究チームである京都 iMED 防災研究会 (iMED; informatics-Medicine-

Engineering Research against Disaster) を結成し、人間健康科学と防災学の協調を模索してきた。多元的見地から地域医療 BCP の策定及び研究を進めている。

(1) 耐震迅速診断支援システム研究 (地震計、情報共有システム)、(2) 医療施設の構造・非構造部材および ME 機器の耐震性研究 (振動実験)、(3) 地域医療連携のための情報共有システム (千年カルテシステム)、(4) 熊本地震の多職種調査 (災害準備・対応・復旧、構造・非構造部材、ME、医療情報・電子カルテ)、(5) 災害時の医療機関における業務継続性に関する評価手法 (京大病院 BCP)、(6) 地域医療 BCP 構築手法の開発 (地域医療 BCP シンポジウム)

4. 考察

2015年、国連機関 (UNISDR) によって Sendai Framework for DRR 2015-2030 の目標が健康を指標として提示された。近年この目標を履行するために人間健康科学と防災学の協調を軸とした科学研究を強化する必要性が一層認識されてきている。しかし人的・経済的損失を最小限に止めるための地域特性を考慮した実効性のある地域医療 BCP を推進するための研究分野はなかった。2019年4月、京都大学防災研究所に地域医療 BCP 連携分野が設置される。あらゆる事態を想定した地域災害医療の取り組みと課題、国際展開について紹介する。